

◇ 担うべき十字架

1. 復興支援コンサート

新緑に包まれて穏やかな「ゴールデンウィーク」を如何お過ごしでしたでしょうか？ 混迷と退廃を極める国際情勢のなか、日本では一部の狂信的政治家が歴史に学ぶことを忘れ、再び孤立と破滅への途を歩もうとして居ます。

しかし、情勢を見誤って居ない人々、例えば、「NPO おんがくの共同作業場」の皆さんは「3・11 鎮魂の歌はまだ終わっていない」として、5月5日に杉並公会堂で東日本大震災復興支援のコンサートを主催されました。自然災害を原子力発電所事故と言う人災でいっそう過酷なものとした責任の一端を担うものとして些かでもその罪の償いを為すべく、会場に向かいました。

東日本大震災
音楽復興支援コンサート 第5回
~3.11 鎮魂の歌はまだ終わっていない~

2017 5/5 (月・祝)
13:00 開場 13:30 開演
杉並公会堂大ホール

JR 中央線・東京メトロ丸の内線荻窪駅北口から徒歩7分
全自由席 3000 円
コンサートの収益金をおんがくの共同作業場の音楽復興支援基金とさせていただきます
未就学児のご入場はご遠慮ください
■主催・チケットお取扱
認定 NPO 法人 おんがくの共同作業場
TEL042-522-3943
<http://gmaweb.net/npo/>

音楽と語りにつづる/J.S.バッハ
『マタイ受難曲』より
指揮：郡司博／語り：渡部智也
独唱：山田英津子、谷地敬晶子、清水勇磨
管弦楽：(財)オラトリオ・シンフォニカ JAPAN ピアノ：吉永哲道
合唱：東京オラトリオ研究会、東京ライエンコーア、音楽復興支援コンサート合唱団
三鷹中央学園三鷹市立第三小学校合唱団、おおさわ学園三鷹市立大沢台小学校合唱団
オーケストラとうたう杜の歌・子ども合唱団

指揮：郡司博
語り：渡部智也
Sop.山田英津子
Alt.谷地敬晶子
Bas.清水勇磨
ピアノ：吉永哲道

和合亮一作詩・新実徳英作曲
『つぶてソング』全曲
指揮：新実徳英
管弦楽：(財)オラトリオ・シンフォニカ JAPAN ピアノ：吉永哲道
合唱：東京オラトリオ研究会、東京ライエンコーア、音楽復興支援コンサート合唱団

13:10 より
児童合唱団によるウエイティングコンサート
「Peace of God」Jhon Rutter
「さる」 谷川俊太郎作詞・北爪道夫作曲
「聞こえる」岩間芳樹作詞・新実徳英作曲

2016年5月5日 杉並公会堂大ホール

2. マタイ受難曲

これまで「メサイア」など宗教音楽を聴き、それなりの感動を覚えたことがない訳ではありません。しかし、福島事故の責任と言った在る種の罪の意識を持って「マタイ受難曲」を聴くことで、些か自意識過剰とは言え、思いもよらぬ感情と思考とを強いられることと為りました。イエスが担ってくれた十字架が、我々を罪から救ってくれるのかと言う感情とそれで事態は何の解決にも至らぬであろうと言う思考です。

バッハがマタイ受難曲を通して人々に訴えたかったものは、イエスをこの世に遣わして人々を罪から救おうとした愛の大きさなのか、それにもかかわらず人間が犯す罪の悍ましさなのでしょう。また、受難曲を災害復旧のために謳う人々、指揮者、演奏家、コーラスメンバー、そして主催者の皆さんのお気持ちが、被災者の皆さんにどの様に伝わるのでしょうか。そして復興の衝に当たって居られる方々に、このお気持ちがいつその励みとなって伝わることを祈らずには居られません。

そのいっぽうで、このような感情を抱いたことを以って災害からの復旧が図られるとするのは、非現実的と言わざるを得ません。その気持ちを励みとして、復旧に当たるべき者一人ひとりがその能力と状況に応じて為すべき事を着実に具体化して行く事を決意する思考が求められます。受難曲の後半に歌われるバスのアリア「おいで 甘き十字架よ…」(#57 “Komm, süßes Kreuz,”) が、チェロの二重奏を後ろ盾にして、聴き手の心に響かせるものはこの思考を確かなものとして実践する決意です。

3. つぶてソング

休憩を挟んで次に歌われた「つぶてソング」は、フルサトを奪われた人々が心の底から叫ぶ言葉の数々を、或いは激しく厳しく、或いは切なく哀しく、聴く人の胸に響く旋律を以って伝えるものでした。

曰く「この震災は何を私たちに教えたのか。教えたものなぞ無いのなら、なおさら何を信じれば良いのか。」「許せるか、あなたは、この怒りを。許せるか、あなたは、この時を。怒りは怒りを許せるのか。悲しみは悲しみを愛せるのか。」「僕はあなたは、この世に、なぜ生きる。僕はあなたは、この世に、なぜ生まれた。僕はあなたは、この世に、何を信じる。」これらの問いかけに応えるべき何物も持たない者は、ただじっと身を固くして座席に蹲るのみでした。ただ、つぶてに打たれて身も心もボロボロ……。担うべき十字架の重さを感じて気持ちは落ち込み、復旧の道のりの遠さを考えて思案に暮れるばかり……。

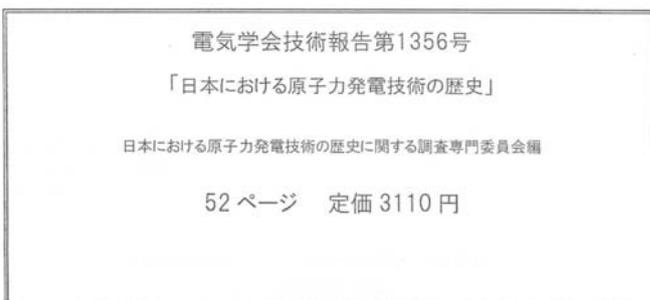
しかし、復旧に当たるべき者一人ひとりがその能力と状況に応じて為すべき事を着実に具体化して行く事を決意する以上は、受難曲のバスのアリアが「私のキリストよ！ その十字架を何時も私の心に授けて下さい！」と歌うように、キリストと共に十字架を担い復旧への長い道のりを歩み通さねばなりません。

4. 担うべき十字架

電気学会は、1998年5月に「倫理綱領」を制定しました。それに付随する「行動規範」には、次の一項が標されて居ます。

1-2 安全の確保と環境保全： 会員は、電気技術が公衆の安全や環境を損なうことにより健康および福祉を阻害する可能性があることを強く認識し、技術が暴走し破滅的な結果を招かないよう、安全の確保と環境保全のため常に最大限の努力を払うと共に、安全と環境管理に関する責任体制を明確化する。

この規範が的確に順守されて居れば、東日本大震災に伴う福島原発事故による災害がこれほど過酷な物とは為らなかつたと考えられます。この趣旨に即し、2011年5月に会員の



《要旨》

本報告書の目的は、深刻な事故を起こした軽水炉の安全性に係る技術開発を中心に、その発展の歴史的事実を、文献や関係者の証言に基づいて整理するとともに、その社会的文脈も含めて、歴史からの教訓を導いて、今後の原子力発電の在り方を考える上で参考となる知見を提供することである。本報告書は、福島第一原子力発電所事故そのものの分析や原因究明を目的とするものではないが、事故のもたらした影響の大きさを考慮して、安全に関わる技術を中心にその歴史に焦点を当てた。

本報告書の構成は、歴史的事実の客観的整理を行った後、技術開発の担い手であった、研究機関、産業界、政府の3つのアクターに焦点を当て、それぞれの立場から開発の歴史を振り返る。その焦点は、福島事故の反省に基づく視点であり、客観的事実を踏まえつつ、各アクターから見た「歴史からの教訓」を記述した。

また、原子力開発の発展に影響を与えた社会・政治・経済的要因にも焦点を当てる。テーマとしては、第一に米国の原子力・核不拡散政策との関連、第二に世論やメディアとの関連、第三に学会や科学者・工学者の社会的責任の3つを扱った。

最後に、これらの教訓を踏まえ、今後の原子力発電や技術開発にとって重要と思われる視点を提言としてまとめた。

一人として然るべき責任を負うべく「処分」を願い出しましたが、その結果「処分に該当しない」として願いは却下されました。諸般の事情に鑑み、この結果を已む無しとは致しましたが、復旧への長い道のりを歩む次の一歩として、福島原発事故の検証を試みました。具体的には、電気学会に「日本における原子力発電の歴史調査専門委員会」の設置をお願いし、主として原子力発電所の安全を確保する技術の発展過程における事実を集積し、これを国際的かつ社会的視野を含めて分析し、的確に達成されたものや為すべくして為されなかつたものを検証し、今後へ提言を報告書に纏めました。
(2016年6月、技術報告#1356)

この報告書には、例えば「原発再稼働是か非か」と言った問いに直ちに答える内容は含まれて居らず、諸賢のご期待に必ずしもお応えするものとはなつて居りません。下手な言い訳ですが、学会の研究活動は、さまざまな見解を集め、それらに対する事実に基づく合理的な判断を示すもので、それに拠り会員各自が主体的な実践を為すべきものなのです。

そこで現在、微力な電気技術者が取り組むべき復旧への長い道のりを歩む次の一歩を検討中です。抽象的であり定かな物でないところをご寛恕戴けるならば、その作業目標は2050年を目途に、「電気を『スマート』に使う共同体」の在るべき姿を描き、それに至る道のりを提案する事です。諸賢のご指導ご鞭撻をお願いする所以です。

受難曲復興に向けた鯉幟 (青史)